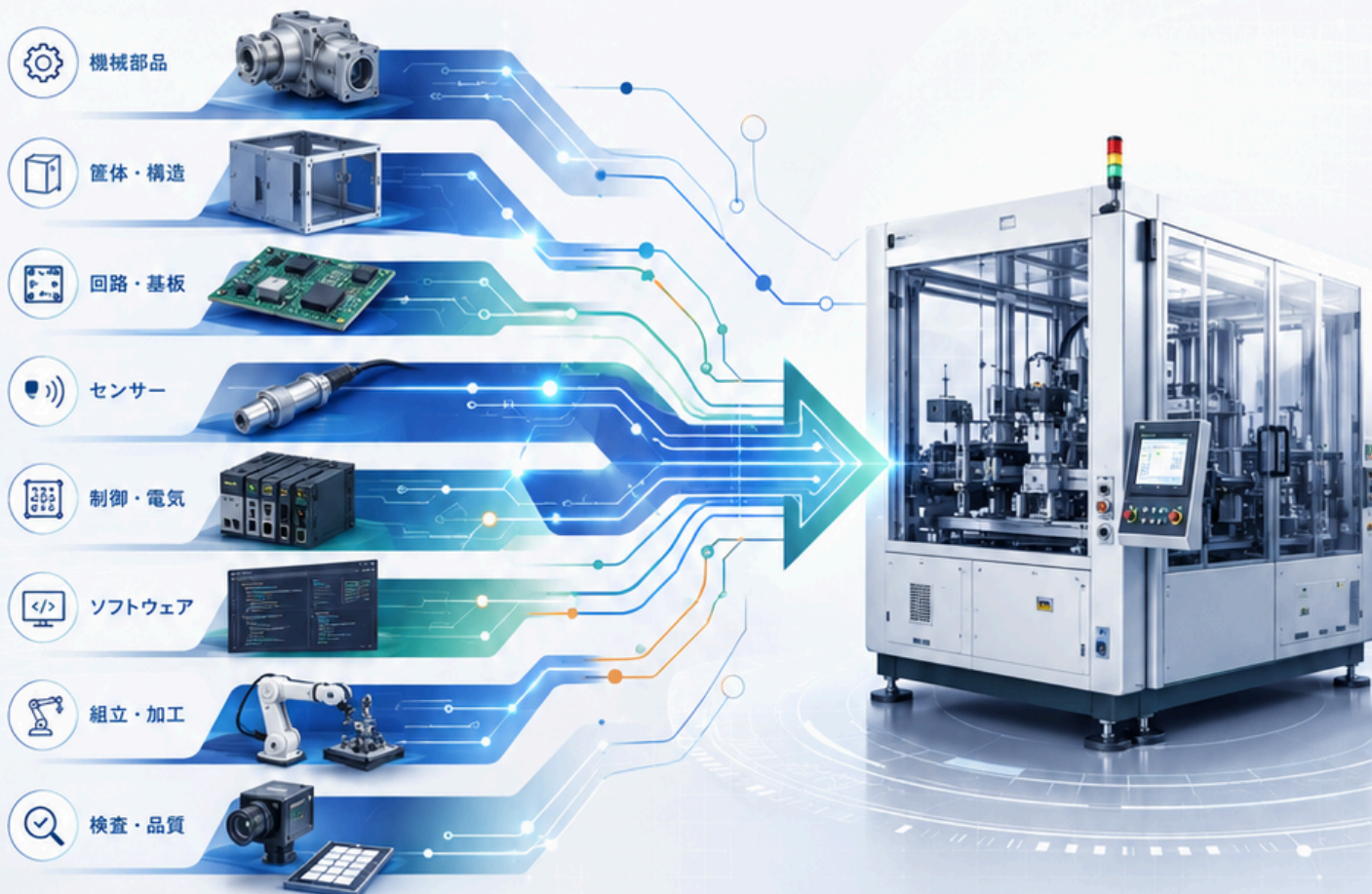


複数の技術・企業が関わる装置開発

「技術のつなぎ目」で 起きる問題と、 その解決方法

構想・設計・試作・検証・量産準備まで
開発プロジェクトを前に進めるための実践ガイド



情報をつなぎ、
プロセスを統合



手戻り・遅延を削減し、
開発リードタイムを短縮



品質・生産性を高め、
競争力を強化



信頼でつながる
エコシステムを構築

なぜ複数企業で 進める装置開発は難しくなるのか

専門技術が増えるほど、企業間の調整と判断が重要になる。

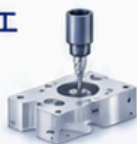
01 機械設計

構想・構造設計
強度・機構検討



02 切削加工

精密部品の切削
高精度加工



03 板金

カバー・筐体などの
板金加工



04 樹脂

樹脂部品の成形・
機能部品の製造



05 電気

配線・配電設計
電気部品選定



06 回路

基板設計・製作
電子回路の実装



07 制御

制御プログラム
制御盤設計



08 ソフトウェア

アプリ・HMI・
通信ソフト開発



09 組立

機械・電気の
組立・配線



10 検査

検査・調整・試運転
品質保証



POINT 01

複数の専門技術が
必要になる



POINT 02

各社は自社工程に
責任を持つ



POINT 03

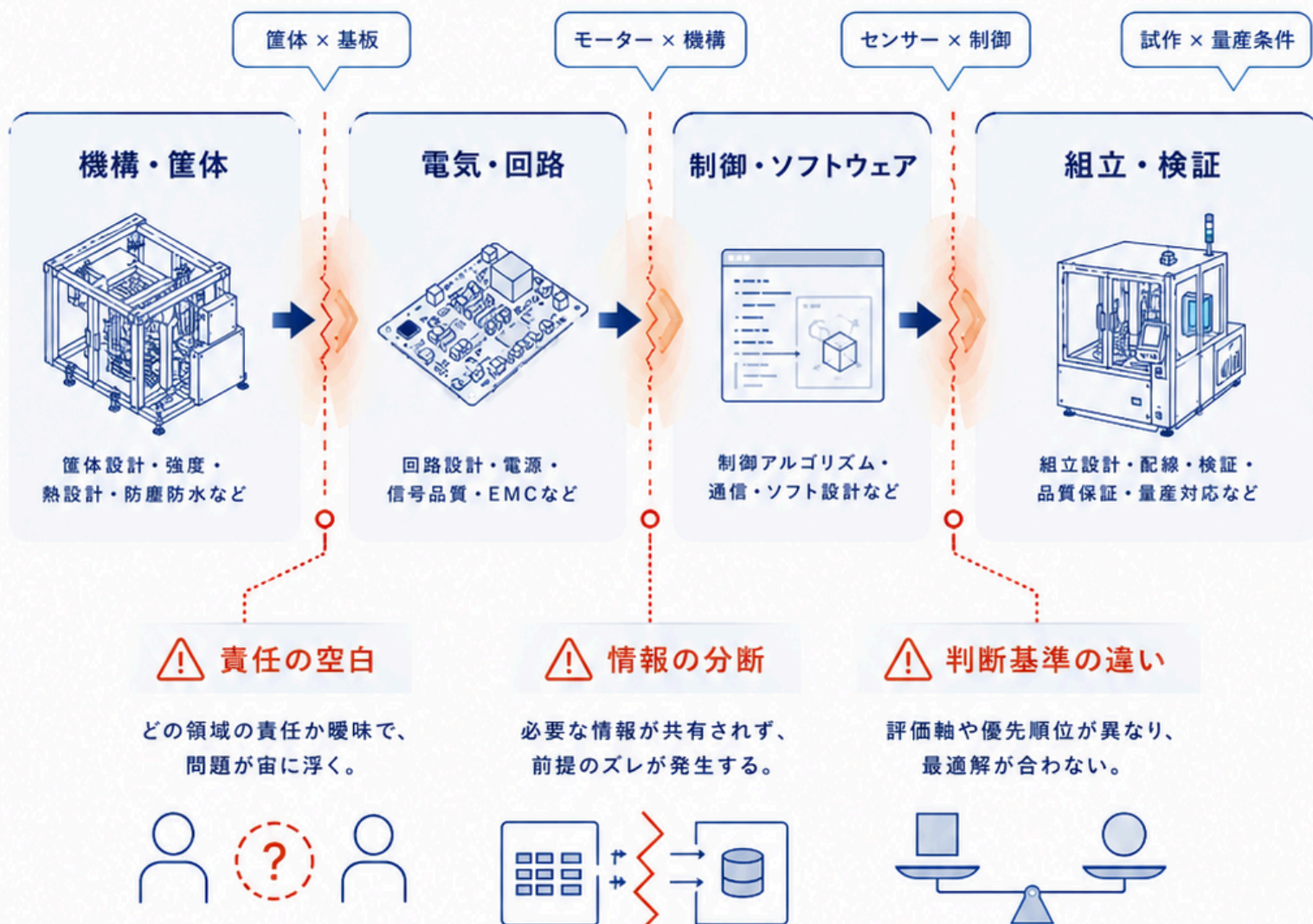
製品として成立させるには
技術間の調整が必要



「専門技術を集めること」と「製品として成立させること」は
別の仕事

問題が起きやすいのは 「技術の境界」

各社が優秀でも、技術と技術のつなぎ目に
責任の空白が生まれやすい。



部品も基板も正しい。
それでも組み合わせると成立しないことがある。

プロジェクトを前進させる 3つの管理機能

複数企業の開発を前へ進めるには、
窓口、発想、つなが目の3つを管理する必要がある。

01



窓口と情報をまとめる

- 複数企業とのやりとりを一括化
- 仕様変更・進捗共有を整理



02



複数の専門視点で 実現方法を考える

- 構想段階から相談できる
- 一社では出にくい解決策を比較



03



技術のつなが目を管理する

- 工程間の条件を調整
- 手戻りリスクを抑える



比較メモ

②は「何をどう作るか」／③は「選んだ技術同士をどう成立させるか」

構想から量産準備まで、 各フェーズで確認すべきこと

フェーズごとに論点は変わる。後工程ほど、修正コストは大きくなる。



後工程ほど修正コスト増

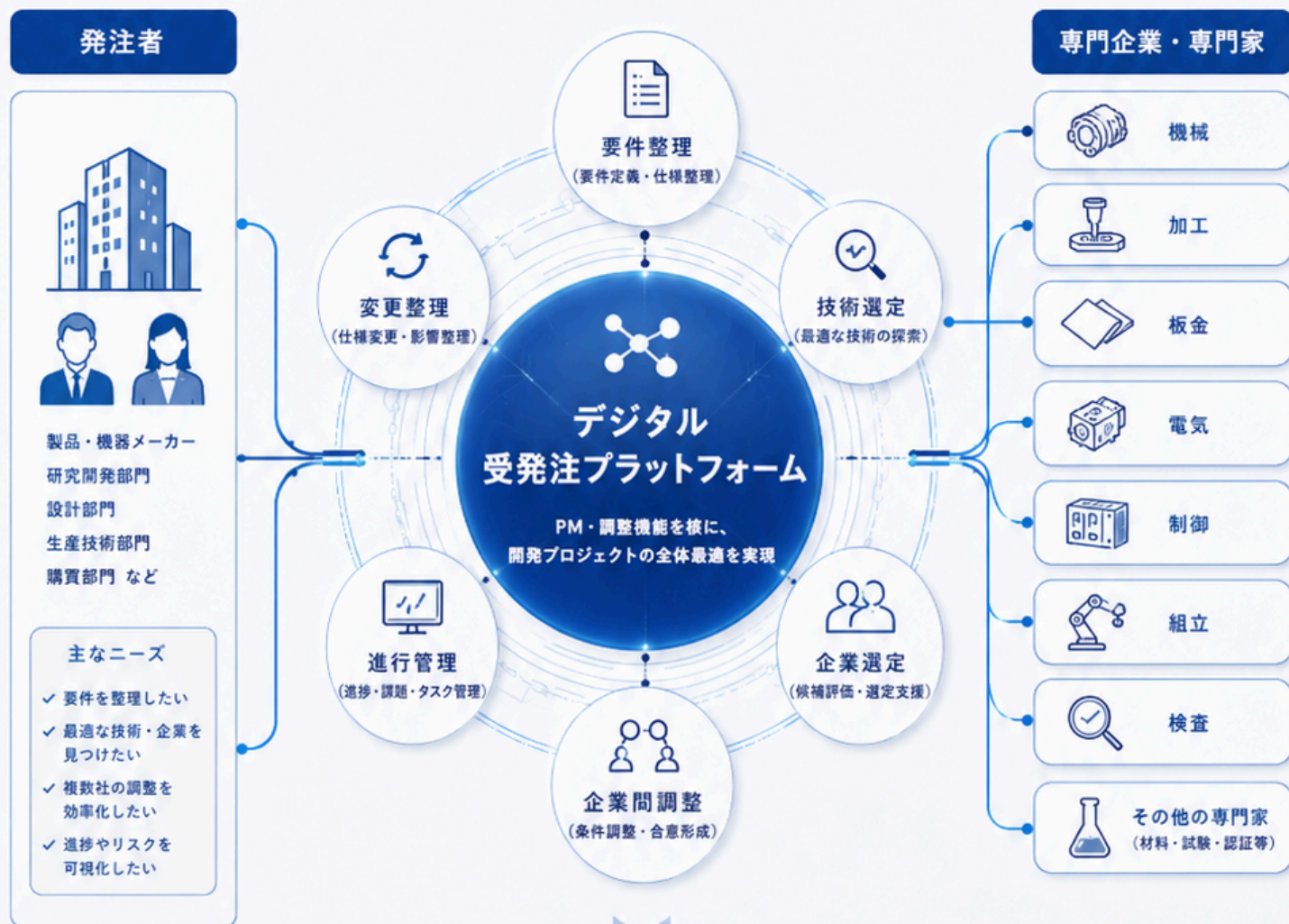
後工程での手戻りは、設計変更・再試作・
工程調整・納期遅延などのコストが増大します。

※一般的な傾向を示すイメージです。



デジタル受発注プラットフォームは、 開発プロジェクト全体をどう支援するか

企業を紹介するだけでなく、要件整理から企業間調整までをつなぐ。



案件に応じた連携体制を組成
最適な専門チームでプロジェクトを推進



Digital

企業情報
案件情報
進捗情報

データでつなぎ、見える化・効率化を実現



Real

現場知見
技術判断
企業間調整

人の知見と対話で、最適解を導く

情報と人の力を掛け合わせ、開発プロジェクトを成功へ導く

あなたの案件に 「調整の空白」はありませんか？

2～3項目当てはまるなら、発注先探しの前に案件全体を整理する価値があります。

☑ チェックリスト



複数の技術・企業が
関係している



相談先が明確ではない



仕様がまだ
固まっていない



各社の意見が分かれて
判断が難しい



設計変更の影響範囲が
見えにくい



試作後の改良や
量産準備まで見通せていない



調整業務に開発担当者の
時間が取られている

図面が未完成でも、 構想段階でも ご相談可能です

案件の現在地を整理し、
必要な技術と進め方を
一緒に検討します。



STEP 01

課題整理

ヒアリングを通じて、
案件の背景や課題を
整理します。



STEP 02

必要技術の確認

課題に対して必要な
技術・構成・対応範囲を
明確にします。



STEP 03

相談・体制検討

最適なパートナーや
進め方・体制を
一緒に検討します。

開発案件について相談する



中立的な立場で
最適解をご提案

特定の製品や企業に
偏らない提案をします。



複数技術・企業の
調整をサポート

複雑な技術連携・役割分担を
スムーズに進めます。



手戻り・遅延を防ぎ
開発リードタイムを短縮

初期段階の整理で、
迷いや手戻りを最小化します。



情報をつなぎ、
エコシステムを構築

最適なつながりが
次の価値創出につながります。